



「帰省」伊豆急行線 片瀬白田ー伊豆稲取

たたんだ千円札

絵 松本忠 詩 浅田志津子

いつも 東京へ帰る朝
玄関までで、いいと言つても
どうせ、買ひ物があるからと
母は 駅までついてくる
もつたないから、いいと言つても
母は 自分の入場券を買つて
わざわざ ホームまでついてくる
列車にわたしが乗りこむ直前
ポケットから たたんだ千円札を出して
途中で、お弁当でも買つてと
わたしの手に握らせる

網棚に 荷物を置いて椅子に座り
窓のガラス越しに 老いた母を見る
陽気に手をふる母を見ながら
早く、発車しないかなと思つて
列車が 動きはじめたら
一度ふりかえつて 母に手をふる
ふりかえるのは 一度だけにする
どんだん小さくなつてゆく母を
見るのは 一度だけにする

車窓から 海が見えなくなると
読みかけの本を開く
読書に飽きて、少し眠るときは
たたんだ千円札は、しおりに使う
飲み物をのせたワゴンがくると
わたしは 財布から小銭をだして
お茶と サンドイッチを買う
母がくれた千円札は
本の中に はさんだまままだ
夕暮れのアパートへ帰りついたら
パソコン机の 引出しの奥の
ビスケットの 空き箱にしまう
たたんだ千円札でいっぱい
あの 古びた木の箱に



詩の舞台である蓮台寺駅の待合室に常設展示されている、詩「たたんだ千円札」の書と絵「蓮台寺駅小景」

松本 忠（鉄道風景画家）

1973年横浜市生まれ、3才から埼玉県戸田市で育つ。東北大学文学部卒業。総合化学メーカー勤務を経て、2001年より「鉄道のある風景」をテーマにした画業に専念。東日本大震災以降、被災した鉄道の切符を大量購入し個展でプレゼントする鉄道応援を始める。著書に、画文集「日本の鉄道抒情」（さきたま出版会）など。公式HP「もうひとつの時刻表」

浅田志津子（ルポライター・詩人）

マニラ生まれ。父親の仕事の都合で少女時代の約七年間を南米で過ごす。上智大学比較文化学部卒業。25歳の頃に両親が下田に移住。市区町村の広報誌、小中学校便り、日能研模試、企業カレンダー等に数多くの詩を提供。2022年、詩集「どこかで読んだ詩」（さきたま出版会）発行。公式YouTube「ぽえとれPoetry&Train」にて、作者による詩の朗読を随時公開。